

言語ゲーム論 I

橋爪大二郎

哲学者ウィトゲンシュタインの言語ゲーム理論が、ここ数年注目を集めている。法や宗教の世界をこの理論で捉えなおす試みが続いている橋爪大二郎氏、言語ゲーム理論の概要を三回にわたって紹介しよう。

——去年の『言語ゲームと社会理論』はだいぶ売れたようですが、

橋爪 本郷の生協だけで、「親戚友人一同」の出足が効いたみたい。あとはほほほほ。

——早速ですけれど「言語ゲーム」って何でいいんですか？

橋爪 「ゲーム」は、そのやむを得ない、……でもまあ、あえて言えば、人間のあらゆる行為についていってかなあ。規則（ルール）に従ったあるまじい、と言ってもいいですね。

——「親戚友人一同」の出足が効いたみたい。あとはほほほほ。

言語ゲーム論 II

橋爪大二郎

ただ、これだけじゃなかった気がしないじゃないか。よく消化して自分の議論にしようと思ったり、せめて「哲学探究」はぜひ読んでほしい。

——結構厚い本でしよ、「ウ

イットゲンシュタイン全集」大

修題の8巻でした。立派な本で、

橋爪 さあ、読解があるのか、

橋爪 さあ、読解があるのか、

橋爪 さあ、読解があるのか、

理論社会学に新しい視座

橋爪大二郎

理論社会学というのは、いま戦国時代なんです。戦後はずっと機能主義が本流だったんだが、これには問題が多くてね、私もいろいろ批判しました。その一方で、現象学派とかエスノメソドロジーとか、新しいパラダイムが乱立しています。隣接領域に対する自配りが欠かれないように、この辺の事情は、最「近出た」自己組織性」(今田高

はしつめ、だいざうろ、社会学専攻、一九四八年生、東大文学部卒、同大学院社会学研究科博士課程修了。以後、著述に専念。言語ゲームと社会理論」(橋爪大二郎著、岩波書店)。

——それは面白かった。橋爪 いちばんむずかしいのは、言語ゲームをどうやって社会システムのモデルに組立てるか、です。ま、これは、次回に話しましょう。

言語ゲーム論 II

橋爪大二郎

言語ゲームをどうやって社会システムのモデルとするかというところからでした。橋爪 さあ、問題はいくつかある。まず、この「言語ゲーム」って、何を指しているのか、というところから。それから、この「言語ゲーム」って、何を指しているのか、というところから。それから、この「言語ゲーム」って、何を指しているのか、というところから。

法や宗教の領域を捉え直す

橋爪大二郎

法や宗教の領域を捉え直す。橋爪 さあ、問題はいくつかある。まず、この「言語ゲーム」って、何を指しているのか、というところから。それから、この「言語ゲーム」って、何を指しているのか、というところから。それから、この「言語ゲーム」って、何を指しているのか、というところから。

法や宗教の領域を捉え直す。橋爪 さあ、問題はいくつかある。まず、この「言語ゲーム」って、何を指しているのか、というところから。それから、この「言語ゲーム」って、何を指しているのか、というところから。それから、この「言語ゲーム」って、何を指しているのか、というところから。

法や宗教の領域を捉え直す。橋爪 さあ、問題はいくつかある。まず、この「言語ゲーム」って、何を指しているのか、というところから。それから、この「言語ゲーム」って、何を指しているのか、というところから。それから、この「言語ゲーム」って、何を指しているのか、というところから。

